第6回 都道府県がん診療連携拠点病院 連絡協議会

情報提供·相談支援部会

平成27年12月8日(火) 13:00~16:30

国立がん研究センター国際研究交流会館3階

本日の内容

3. がん相談支援センターの活動におけるPDCAサイクルの確保

- 1) 前回の決定とその後の各都道府県の意向、研究班における検討について
- 2) 今後の情報提供・相談支援部会としてのPDCAサイクル確保に向けた 取り組みと新しいワーキンググループの発足について

4. がん対策をめぐる動きと、部会としての意見収集

- 1) 第2次「がん対策推進基本計画」中間評価について
- 2) がん対策加速化プランについて
- 3) 患者申出療養について
- 4)制度上・体制上の改善点等、各県で情報収集を行うための準備について
- 5) ディスカッション

5. 全国の情報提供・相談支援に関する好事例

- 1)滋賀県の取り組み
- 2)秋田県の取り組み

本日の内容(つづき)

6. がん対策情報センターからのお知らせ等

- 1) 平成27年度地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画 開催報告・進捗報告
- 2) 平成28年度域相談支援フォーラム採択企画
- 3) 平成28年度相談員基礎研修他の開催予定

7. その他

- 8. 連絡事項
- 9. 閉会のあいさつ



都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会設置要領

平成24年11月27日より施行

(設置)

第1条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会(以下「部会」という。)を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。

- (1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。
- (2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理
- (3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と(連絡協議会を通じて発信することを想定した)提言に向けた素案の作成

3. がん相談支援センターの活動におけるPDCAサイクルの確保

- 1)前回の決定とその後の各都道府県の意向、研究班における検討について
- 2) 今後の情報提供・相談支援部会としてのPDCA サイクル確保に向けた取り組みと 新しいワーキンググループの発足について

今後の具体的な進め方について(案)

- 活動の見える化と相談件数のカウントについて
- 1)「利用者調査」→研究班の協力を得て検討を開始する
- 2) 「相談件数」 → 研究班の協力を得て検討を開始する
- 3) 「相談件数以外の項目」 → 現況報告で
- 4) 「実施状況」 → 各県で決めた活動内容を測定、見える化

今後の具体的な進め方について(提案)

1)「利用者調査」→

- 研究班(2015年度)の協力により検討を開始する
- 研究協力施設の募集(県単位で意見集約)(2015年9月頃)

2) 「相談件数」→

- 研究班(2015年度)の協力により運用方法の検討を開始する
- 研究協力施設の募集(県単位で意見集約)(2015年9月頃)
- 寄せられた意見をワーキンググループ(既存)にて再検討し、最終案を作成
 - 記入シートの提出・収集方法(Web等も含む)、集計方法など
 - 各県へ、各施設へフィードバックする方法
 - フィードバック後の結果の活用方法など
 - ↓ 2016年度 第1回部会において
- 統一した方法での検討結果の報告と共有を行う

各都道府県からの意向とりまとめ結果

H27年9月末

1)「利用者調査」

- (長期的にみて) 都道府県として参加するか
 - → 参加42、保留5、不参加0
- 今年度のパイロット研究に参加するか
 - → 30都道府県、国指定154施設

2) 「相談件数」

- (長期的にみて)都道府県として参加するか
 - → 参加42、保留5、不参加0
- 今年度のパイロット研究に参加するか
 - → 30都道府県、国指定148施設
- *ただし、「相談件数」については合意が得られなかったため保留(3都道府県)

WG案を受けた「事務局の提案」について

- 実務・費用の負担のあり方によっては、参加者が減る可能性はあるが、全国統一方式として、ワーキンググループ提案はほぼ受け入れられた
- 実施可能性の検討を研究班に依頼して進めていく
 - → 研究班※での準備体制に着手

※厚生労働省研究費補助金「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究」班

研究代表者 若尾文彦(国立がん研究センターがん対策情報センター長)

研究班によるパイロット参加施設

● 地域性等を考慮し、下記8都道県・16施設に依頼

北海道 北海道がんセンター/旭川医科大学病院

東京 東京都立駒込病院/がん研究会 有明病院

神奈川 神奈川県立がんセンター/藤沢市民病院

長野 信州大学医学部附属病院/長野市民病院

岡山 岡山大学病院/岡山赤十字病院

香川 香川大学医学部附属病院/高松赤十字病院

福岡 九州がんセンター/九州大学病院

長崎 長崎大学/長崎医療センター

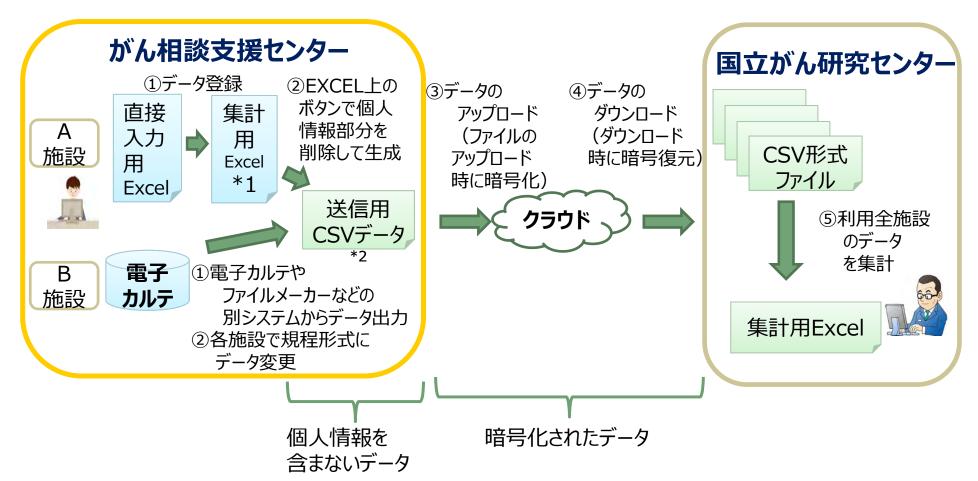
研究班による検討の予定

- 2015年12月~2016年1月:
 - 各施設での準備
- 2016年1月~3月:
 - 利用者調査パイロットならびに相談件数カウントパイロットの実施
- 2016年3月:
 - パイロット実施によって明らかになった点の集約
- 2016年5月(第7回部会):
 - 仮集計と今後の実施案の提示

パイロット:利用者調査

- 項目は資料4-1参照
- 1月中旬~3月中旬までの調査期間中に、すべての面談による相談者に調査票を配布(100名まで)
- 郵送返送(がん対策情報センター宛)
- 都道府県ごと、ならびに施設ごとに結果をフィードバック

パイロット:相談件数カウント調査 概要



- *1 各施設での集計・解析が可能
- * 2 送信用CSVデータ:本システムでフォーマットを規程する カンマ区切りテキストファイル形式のデータ Excelでもメモ帳でも開くことができるデータ

今後の具体的な進め方について(提案)

- 活動の見える化と相談件数のカウントについて
- 1)「利用者調査」→研究班の協力を得て検討を開始する
- 2) 「相談件数」 → 研究班の協力を得て検討を開始する
- 3) 「相談件数以外の項目」 → 現況報告で
- 4) 「実施状況」 → 各県で決めた活動内容を測定、見える化
 - 各都道府県での検討:県内で進める活動・取り組みを議論し、決める
 - 検討や実施が可能な県でスタートする
 - 各県の検討・実施状況について、部会事務局よりアンケート (2016年2~3月頃)↓ 2016年度 第1回部会において
 - 各県の検討・実施状況の報告と共有
 - ①各県の取り組み状況について、「アンケート結果」を共有
 - ②「具体的な検討を開始した県からの報告」による共有
 - 互いの県の取組みを参考にするなど

がん相談支援センター指標骨子 <目標の整理と対応する指標について>

アウトカム		プロセス		測定指標		構造	施策	
最終 目標	患者·家族· 準最終 目標	市民 必要な条件	がん相談支援必要な条件・状態	受センター 実施状況の 例示	測定関連 指標	調査関連	体制	整備指針 の内容
困って いる患 者 ・家族 が減る	頼りに できる 人・相 談の場 がある	相談の場があるがは、 増える 対象をがられる 対象をがまる 対象を 対象を 対象を 対象 では 対象 できまる はいまい はい	その人にとって アクセスしやすい 相談場所・相 談の入り口が ある 多様な相談 先がある 複数の相談 場所がある	・センターのおりでは、とこのでは、またのでは、このでは、このでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ		【住民調査】 【患者体験調査】「相談の場がある」の回答割合 (別)		クリスト
		患者が孤立しない	情報や助けを 求めている人 に気づく人が 増える	・案内を 個別に配 布してい る	担当医から 紹介された 相談件数	(【医療者 調査】相談 支援セン ター認知度、 有用度)	(拠点病 院であるこ との広報)	④主治医等 から、がん患 者及びその 家族に対し、 周知が図ら れる体制を 整備する 15

部会→親会への提案内容(案)

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会より厚生労働省ほか 関係検討会等に行っていただきたい提案(案)

> がん情報提供および相談支援センターの活動の PDCAサイクル確保に関する提案(案)

「困っているがん患者や家族等が減る」という最終目標に向けて、がん相談支援センターの「利用者調査」を継続的に実施することは重要であることから、そのための実施体制の整備をする必要がある。

部会→親会→厚生労働省健康局長 (H27/8/7)

「がん対策を加速し、全国のがん医療水準の向上を実現するための都道府県がん診療連携拠点病院の体制整備に関する提案」

- 1. 都道府県がん診療連携拠点病院の事務局機能を充実させる必要があり、この業務に専従的に関わる人材配置が不可欠です。その事務局機能を担う人材を配置できるよう、国において適切な財政措置を行うことを要望します。
- 2. 都道府県がん診療連携拠点病院が医師主導臨床試験を進めていくにあたり、配置が不可欠なCRCを雇用することができるよう、国において適切な財政措置を行うことを要望します。

3. がん相談支援センターの活動におけるPDCAサイクルの確保

- 1)前回の決定とその後の各都道府県の意向、研究班における検討について
- 2) 今後の情報提供・相談支援部会としてのPDCA サイクル確保に向けた取り組みと 新しいワーキンググループの発足について

各都道府県におけるPDCAサイクルの確保 に関する状況の共有

- 第5回部会(2015年6月)に各都道府県において取り組むことが合意された、各県での取り組み状況について、 年度末に部会として、状況調査を実施予定
 - 参考: 資料4-3「がん相談支援センターPDCA実施状況チェックリスト(例)」



• 先進事例を第7回部会(2016年5月)で、全国の取り組み状況を共有する

効果的に進めるための次期WGの設置(案)

- 1. がん相談支援センターの活動のPDCAサイクル確保を 都道府県内において効果的に実施するための第2期 ワーキンググループを新年度に発足させる
- 2. 職種・病院種別・地域のバランスを考慮した<u>10人</u>程度 の人数とする
- 3. 部会委員より自薦・他薦により候補者を募る
- 4. 研究班での検討結果を受け、平成28年度に3回程度 のワーキンググループを実施する
- 5. 発足時期は、第7回部会(2016年5月)後を予定

4. がん対策をめぐる動きと部会としての意見収集

- 1) 第2次「がん対策推進基本計画」中間評価について
- 2) がん対策加速化プランについて
- 3)患者申出療養について
- 4)制度上・体制上の改善点等、各県で情報収集を行うための準備について
- 5) ディスカッション

がん対策推進基本計画中間評価の概要

全体目標【平成19年度からの10年目標】

(1) がんによる死亡者の減少 (75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少) (2) すべてのがん患者とその家族の苦痛の軽減 と療養生活の質の維持向上

- 第二期から
- (3) がんになっても安心して暮らせる社会の構築

- ・年齢調整死亡率の推移:92.4(2005年)→80.1(2013年)
 減少傾向ながら、全体目標の達成が難しいという統計予測も出ている。
- ・喫煙率減少、がん検診受診率向上をはじめとしたがん対策 のより一層の推進が必要。
- ・身体的苦痛や精神心理的苦痛の緩和が十分に 行われていないがん患者が3~4割ほどいる。
- ・引き続き、緩和ケア等の提供体制の検証と整備が必要。
- 家族に負担をかけていると感じていたり、職場関係者等に気を使われていると感じるがん患者が3割ほどいる。
- ・がんの教育・普及啓発、がん患者への社会的苦痛の緩和等の取組をより 一層推進することが重要。

重点的に取り組むべき課題

- (1)放射線療法、化学療法、手術療法 の更なる充実とこれらを 専門的に行う医療従事者の育成
- (2) がんと診断された時からの 緩和ケアの推進

(3)がん登録の推進

(4)働く世代や小児へのが ん対策の充実

第二期から

- ・拠点病院の指定要件の改正やがんプロフェッショナル基盤養成プラン等の取組により、一定の進捗が得られている。
- ・今後、系統的なデータ収集体制の整備や 先進的な放射線治療機器の適正配置に ついての検討、がん診療に携わる専門医 のあり方についての検討等を推進するこ とが重要。
- ・拠点病院の指定要件の改正により、診断 時から緩和ケアを提供する体制や専門家 による診療支援体制の整備が進み、医 師・看護師の意識の変化もみられた。
- ・拠点病院の医師に対して、緩和ケア研修 会を受講するよう促すとともに、在宅医等 が受講できる体制を構築することが必要。
- ・拠点病院以外の医療機関や緩和ケア病棟、 在宅医療等における緩和ケアを推進していくことが必要。

- ·平成25年12月にがん 登録が法制化。
- 国民への周知が不十 分であり、より一層の 普及啓発が必要。
- ・関連部局と連携し、がん患者・ 経験者の就労支援について検 討した。
- ・就労支援に関する既存の仕組 み・施策・制度を十分に理解し、 活用していくことが重要。
- ・小児がんについては、「小児が ん拠点病院」及び「小児がん中 央機関」を指定した。

22

がん対策推進基本計画中間評価の概要

その他、分野別施策について

1. がん医療

- ①放射線療法、化学療法、手術療法のさらなる充実とチーム医療の推進
- ②がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成
- ③がんと診断された時からの緩和ケアの推進
- ④地域の医療・介護サービス提供体制の構築
- ⑤医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組
- ⑥その他(希少がん、病理診断、リハビリテーション)

2. がんに関する相談支援と情報提供

3. がん登録

4. がんの予防

5. がんの早期発見

6. がん研究

7. 小児がん

- 8. がんの教育・普及啓発
- 9. がん患者の就労を含めた社会的な問題
- ・地域の医療・介護サービス提供体制の構築や、病理診断、リハビリテーション、がんの相談支援、たばこ対策・感染症に起因するがんへの対策をはじめとするがんの予防に係る施策、がん検診の受診率向上をはじめとするがんの早期発見に係る施策等についても、一定の進捗が得られているが、基本計画で掲げた目標達成に向けて、引き続き推進が必要。
- 高齢化が進んでいる我が国の現状を鑑みて、がん患者が住み慣れた地域や住まいで療養生活を送ることができるよう、拠点病院等との連携を確保しつつ、在宅医療・介護体制の整備等を進めることは喫緊の課題。
- ・希少がんについては、「希少がん医療・支援のあり方に関する検討会」の検討状況を踏まえ、診療体制や情報提供体制等を整備することが必要。
- ・がん研究については、「健康・医療戦略」及び「医療分野研究開発推進計画」に基づき、新たに設立されたAMEDによる管理の下、平成26年度からの「がん研究10か年戦略」に基づいて、関係省庁が一体となって推進することが重要。

がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項について

- 1. 関係者等の連携協力の更なる強化
- 2. 都道府県による都道府県計画の策定

3. 関係者等の意見の把握

- 4. がん患者を含めた国民等の努力
- 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
- 6. 目標の達成状況の把握とがん対策を評価する指標の策定
- 7. 基本計画の見直し

・がん対策の推進に当たっては、引き続き、国、地方公共団体と関係者等が、適切な役割分担の下、相互の連携を図りつつ一体となって努力していくことが重要
 ・本中間評価報告書の内容と、別途とりまとめた「今後のがん対策の方向性について」の内容を踏まえて、今後、がん対策推進協議会等で、具体的な数値目標の設定を含めて、次期がん対策推進基本計画の策定に関する検討を行っていく必要がある。

指標 C4d

拠点病院のがん相談支援センターの利用者満足度

	対象 (分母)	算出法 (分子)			
指標	がん診療連携拠点病院のがん相談支援セ ンターの利用者	センター利用後に、「安心」「満足」「役に立った」 の回答をした者の割合			
結果	81.4%				
期間	平成 27 年 1 月~平成 27 年 3 月				
注	サンプル法を反映した補正値。				

問34b. がん相談支援センターを利用して役に立ったと思いましたか? (○は1つ)

選択肢	回答者	% (粗解析值)	% (補正値)
1. とても役に立った	207	43.7%	35.8%
2. やや役に立った	178	37.6%	45.7%
3. どちらともいえない	48	10.1%	8.4%
4. あまり役に立たなかった	23	4.9%	6.2%
5. まったく役に立たなかった	16	3.4%	3.9%
9. わからない	2	0.4%	0.1%

無回答6名を除外。



問 34a. がん相談支援センターを知っていますか? (○は1つ)

選択肢	回答者	% (粗解析値)	% (補正値)
1. 利用したことがある	480	7.7%	7.8%
2. 利用したことはないが、知っている	3,067	48.9%	48.2%
3. 知らない	2,414	38.5%	39.3%
9. わからない	306	4.9%	4.7%

無回答 462 名を除外。

がん対策を加速するための新たなプランの策定について

がんサミット開催(平成27年6月1日)

~安倍総理大臣の挨拶より~

本日、私から、厚生労働大臣に対し、<u>「がん対策加速化プラン」を年内を目途に</u> 策定し、取組の一層の強化を図るよう指示いたします。このプランは、厚生労働省 だけでなく、関係する多くの方々と政府が一丸となって実施するものです。

~塩崎厚生労働大臣の挨拶より~

[がん対策を加速するための3つの柱となる考え方]

- ① がん教育やたばこ対策、がん検診を含む早期発見の強化に取り組む「**がん予防**」を進め、 「避けられるがんを避ける」こと
- ② 小児がん、希少がん、難治性がん等の研究の推進に取り組む「治療・研究」を推進し、死亡者数の減少につなげていくこと
- ③ 緩和ケア、地域医療やがんと就労の問題などに取り組む「**がんとの共生**」を進め、「がんと共にいきる」ことを支援すること



がん対策加速化プラン(平成27年12月〇日)

「がん対策加速化プラン」の3本の柱

予防 治療•研究 共生 難治性がん等の研究 地域医療 予防の強化 がん教育・普及啓発の推進 難治性がんの克服 がんと就労の調和の推進 感染症等によるがん予防 革新的な医薬品等の開発 緩和ケアを含む地域完結型 受動喫煙の防止 ライフステージを意識したが のがん医療・介護の推進 早期発見 ん対策の充実 が ん 対 策 加 速化プラン 策 定 0 がんと共に 避けられる がん死亡者 の減少 生きる がんを防ぐ

国民病である"がん"を克服し、世界に誇る健康長寿大国の確立

がん対策加速化プラン

- 第53回がん対策推進協議会(9月17日)
 - がん対策加速化プラン骨子案
 - がん対策加速化プランの策定に向けて
- 第54回がん対策推進協議会(11月6日)
 - がん対策加速化プランに関する委員の意見と新たな対策案
- 第55回がん対策推進協議会(11月20日)
 - がん対策加速化プランへの提言(案)
- がん対策加速化プランへの提言の公表(12月3日)

(http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000106010.html)



がん情報サービス ganjoho.jp

がん対策加速化プランへの提言

- 1. 予防 ~避けられるがんを防ぐ
 - (1)がん検診
 - (2)たばこ対策
 - (3)肝炎対策
 - (4)学校におけるがん教育
- 2. 治療・研究 ~がん死亡者の減少~
 - (1)がんのゲノム医療
 - (2)標準的治療の開発・普及
 - (3)がん医療に関する情報提供
 - (4)小児・AYA世代のがん・希少がん対策
 - (5)がん研究
- 3. がんとの共生 ~がんと共に生きる~
 - (1)就労支援
 - (2)支持療法の開発・普及
 - (3)緩和ケア



1. 予防 ~避けられるがんを防ぐ

- (1)がん検診
 - 1)受診率対策
 - 2) 職域のがん検診
- (2)たばこ対策
 - 1)禁煙対策
 - 2)受動喫煙対策
- (3)肝炎対策
- (4)学校におけるがん教育

2. 治療・研究 ~がん死亡者の減少~

- (1)がんのゲノム医療
- (2)標準的治療の開発・普及
- (3)がん医療に関する情報提供

拠点病院等の院内がん登録や現況報告で得られる情報を活用し、希少がんや小児・AYA世代のがんも含め、診療実績や医療従事者の配置等、患者や家族が必要とする情報を簡単に検索でき、医療施設同士の比較も可能なシステムを構築し、広報・周知する。

- (4) 小児 AYA世代のがん 希少がん対策
 - 1) 小児 AYA 世代のがん対策
 - 2)希少がん対策
- (5)がん研究



3. がんとの共生 ~がんと共に生きる~

(1)就労支援

- 拠点病院等のがん相談支援センターを活用した仕事の継続を 重視した相談支援の実施、就労相談を重視した地域統括支援 センターの拡充を進めていく。
- ハローワークが拠点病院等と連携して実施する就職支援モデル事業を全国展開していくともに、事業主向けセミナーや就職支援ナビゲーターの交流会の実施なども進めていく。
- (2)支持療法の開発・普及
- (3)緩和ケア
- がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養や生活を選択できるよう、関係団体と協力し、緩和ケアに携わる者や施設間の調整を担う人材の研修や、訪問看護ステーション等の看護師を対象とした研修を実施する。

4. 協議会委員より提出されたその他の意見①

以下の事項は、協議会委員から提出された意見を分野別に整理したものである。今後、これらを踏まえ、次期がん対策推進基本計画策定に向けて検討すべきである。

<予防> (4)がん教育

●国を挙げての普及啓発推進(キャンペーン、合言葉、テレビコマーシャル、がん診療連携拠点病院などでの統一イベント開催、シンボル、がん対策デイなど)

<治療・研究> (2)標準的治療の開発

●都道府県における標準治療実施に関する現状把握、標準 治療実施に向けた取組の実施及び情報の公表

(3)がんの情報提供

- ●HON コード等、正しい医療情報に対する認定制度(認定トレードマーク)の導入
- ●全国のピアサポーター、患者会との協力体制の構築
- ●家族を含むケアギバー(患者の世話をする人)に対する情報・サポートの充実



Health On the Net Foundation

Non Governmental Organization

Medical information you can trust!

A | SPEECH: ON - More info? | FR - EN - DE - SP - CN - PL - NL | HOME

Enter depending on your status

PATIENT / INDIVIDUAL

MEDICAL PROFESSIONAL

WEB PUBLISHER

The services offered by HON



HONcode

HONcode certification: Improving the quality of online health information



HONsearch

Search only reliable and trustworthy medical websites



HONtools

Use our free services to enhance and improve your online experience



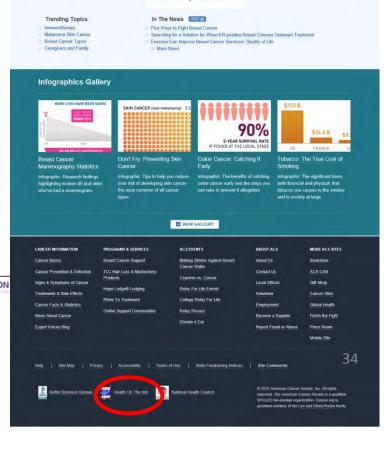
HONtopics

Access a varied list of reliable medical/health topics

The Health On the Net Foundation (HON) promotes and guides the deployment of useful and reliable online health information, and its appropriate and efficient use. Created in 1995, HON is a non-profit, non-governmental organization, accredited to the Economic and Social Council of the United Nations. For 15 years, HON has focused on the essential question of the provision of health information to citizens, information that respects ethical standards. To cope with the unprecedented volume of healthcare information available on the Net, the HONcode of conduct offers a multi-stakeholder consensus on standards to protect citizens from misleading health information.

HON is funded by the State of Geneva, several European projects, the French National Health Authority (HAS) and the Provisu foundation. HON is also supported by the Geneva Hospital since its inception.

http://www.hon.ch/home1.html last modified: Jun 10 2013 Ethical policies Contact @ HON



Sign In Register Sign Up for Email Español Asian & Pacific Languages

How can we help you?

You Need to Know

possible is to pay attention to any breast

changes and report them to your health

care provider. Find out what to look for

Learn About Cancer Stay Healthy Find Support & Treatment Explore Research

Do elephant genes hold the key

their genes contain some mechanisms that

information help stop cancer in humans?

Ted Gansler, MD, MBA, MPH, explains

keep cancer from forming. Could that

to stopping cancer?

Donate Now

In the fight against breast cancer, no one should walk alone.

Live Chat 6800-227-2345

Donate To Help Fight Breast

Against Breast Cancer save lives through

groundbreaking research, early detection

and by giving patients a hand to hold.

4. 協議会委員より提出されたその他の意見②

- <治療・研究> (4)小児・AYA世代のがん・希少がん対策
 - ●拠点病院間での情報共有を通じた専門性の担保(数多くある疾病の専門役割分担)
- くがんとの共生> (1)就労支援
 - ●拠点病院以外の看護師等に対する、広く就労支援に関する 基本的知識を取得するための研修機会の確保
 - ●医療従事者、相談員に対するがんと就労に関する研修の提供

(3)緩和ケア

●患者背景に応じた治療説明や服薬指導、外見の変化に対する支援、性に関する問題の相談、遺伝相談、家族・遺族支援など、相談支援センターにおける中長期的な支援機能の付加

今後のがん対策の方向性についての概要

(~これまで取り組まれていない対策に焦点を当てて~)

がん対策推進基本計画に明確な記載がなく、今後、推進が必要な事項

1. 将来にわたって持続可能ながん対策の実現

- ・少子高齢化等の社会・経済の変化に対応する社会保障制度の改革 地域医療介護総合確保推進法に基づく地域における効率的かつ効果的な医療提供体制の確保 ⇒がん患者を含めた国民全体が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる体制の整備
- •各施策の「費用対効果」の検証
- ・発症リスクに応じた予防法や早期発見法を開発・確立することによる個人に適した先制医療の推進
- がん医療の均てん化と集約化の適正なバランスに関する検討
- がん登録情報を活用した大規模データベースの構築

等

2. 全てのがん患者が尊厳をもった生き方を選択できる社会の構築

- ・がん患者が「自分らしさと尊厳」を持って、がんと向き合って生活していくためにはがんに関する正しい情報を獲得することが 重要⇒「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんと共に生きることができる社会」の実現
- ・障害のある者に対する情報提供、意志決定支援、医療提供体制の整備
- ・難治性がんに対する有効で安全な新しい治療法の開発や効果の期待できる治療法を組み合わせた集学的治療の開発等

3. 小児期、AYA世代、壮年期、高齢期等のライフステージに応じたがん対策

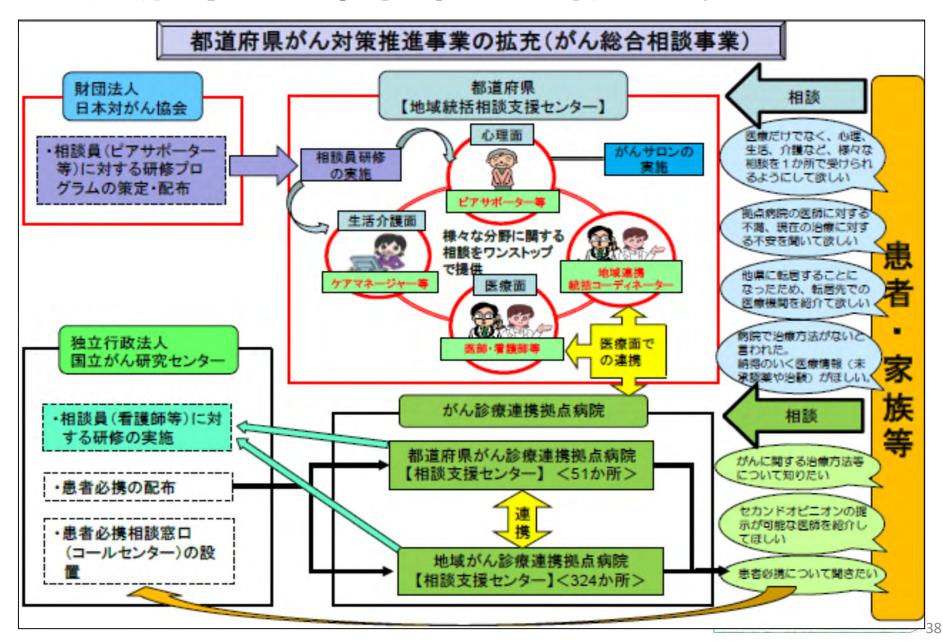
- ・総合的なAYA世代のがん対策のあり方に関する検討(緩和ケア、就労支援、相談支援、生殖機能温存等)
- ・遺伝性腫瘍に対する医療・支援のあり方に関する検討
- · <mark>認知症対策と連動した高齢者のがん対策</mark>のあり方に関する検討

笙

わが国のがん対策の歩みについて

法律	がん対策推進基本計画	研究戦略				
平成18年6月 がん対策基本法成立 平成19年4月 がん対策基本法施行 平成25年12月 がん登録推進法成立	平成19年6月 がん対策推進基本計画 閣議決定 平成24年6月 第2期がん対策推進基本計画 閣議決定 平成27年6月 がん対策推進基本計画 中間評価 策 加 速 化	昭和59年4月 対がん10ヵ年総合戦略 平成6年4月 がん克服新10か年戦略 平成16年4月 第3次対がん10か年総合戦略 で成26年4月 がん研究10か年戦略				
平成28年6月頃 がん対策基本法 改正(P) <議連で検討の動き>	平成29年6月頃 第3期がん対策推進基本計画 閣議決定	37				

都道府県地域統括相談支援センター



全国に設置の10カ所の地域統括相談支援センターの概要

都道府県	設置年	予算 (平成26年)	設置場所 (名称)	相談員等	相談員研修
宮城県	平成23年 前身(平成22年)	5,070千円	宮城県対がん協会	看護師	緩和医療学会等の学会や各種の研修会に参加
千葉県	平成23年	4,800千円	千葉県がんセンター	看護師、事務員	国がんの研修、相談支援センター相談員指導者による指導
富山県	平成25年	18,226千円	県社会福祉総合会 館	看護師、保健師、事務員	相談員基礎研修、県内外視察
山梨県	平成24年	1,700千円	山梨県健康管理事 業団	看護師、保健師、ピアサポー ター、事務員	県主催のピアサポーター養成 講座
三重県	平成23年 前身(平成19年)	12,189千円	三重県健康管理事 業センター	看護師、事務員	国がんの研修、ネットの養成 講座、公開講座、勉強会
奈良県	平成24年	115千円	吉野保健所 (年3回窓口開設)	保健師、ピアサポーター	保健師が拠点病院の協議会 分科会に参加
山口県	平成26年	6,000千円	県庁	保健師	相談支援センターの一緒に研修会、事例検討会。連絡会 にも参加予定
高知県	平成23年 前身(平成19年)	11,750千円	男女共同参画センター	相談員=患者家族、臨床 検査技師、事務員	国がんの研修、スピリチュアル 研修、学会等(予算確 保)
沖縄県	平成23年	8,440千円	琉球大学病院	看護師=乳がん体験者、事 務員	学会の研修会等
京都府	平成26年 前身(平成25年)	26,700千円	メルクリオ京都	相談員=看護師、保健師、 ピアカウンセラー、事務員 京都府:健康対策課課長 がセンター長を兼務、事務	国がんの研修、各種セミナー、 個人情報保護法等の研修 39

全国に設置の10カ所の地域統括相談支援センターの役割・特色

都道府県	県内の 拠点 病院数	がん相談体制での役割・特色
宮城県	8	検診機関の特性を活かした(健康時から知ってもらう)相談窓口の紹介と対応。 県内拠点病院以外を含む19ヵ所の相談窓口の一つとして機能・紹介。(県内 に、相談支援の後方支援的役割を担う「東北大病院包括的がん医療推進室」がある)
千葉県	13	県拠点より相談事業の拡充を目的として県に提案され県拠点病院内に設置。 相談支援センターとの棲み分けが難しかったが、ピアサポート支援等、拠点病院 や医療者が担うことの難しい支援や院外からのサポートにシフトしていくことになる と考えている。
富山県	7	富山駅から10分の徒歩圏内の社協の建物内に設置。まちなか、病院以外の公的施設、福祉との連携もしやすい。相談対応他、情報収集・提供(図書の設置、地域の療養情報作成・印刷手配等含)、ピアサポーターの養成、患者会支援、関係者の資質向上を行う。県拠点退任後の看護部長他、経験のある保健師が対応。
山梨県	5	相談対応は予約受付で行う。相談対応者は委託先の医師(不定期)、保健師・看護師(毎週火)、ピアサポーター(毎週火)。 県内で養成されたピアサポーターの受講生から派生した患者団体に相談対応の依頼を行っている。
三重県	5	H20年1月~「三重県がん相談支援センター」として設置され、電話相談、フォーラム運営など担う。相談窓口の他、多様な相談支援(グリーフケア、おしゃべりサロン)、患者会やサポーター活動支援などを行う。地域で暮らす患者・体験者の支援。

全国に設置の10カ所の地域統括相談支援センターの役割・特色

都道府県	県内の 拠点 病院数	がん相談体制での役割・特色
奈良県	5	拠点病院のない医療圏(南和)の保健所内に相談窓口を設置し、サロンも 行う(3回/年)。運営スタッフは拠点病院から、予算は旅費のみ。
山口県	9	病院ではない第三者的な機関として気軽に相談できるワンストップの窓口として 県庁内に設置。まずは相談対応から。H26年7月の設置後間もないこともあり、 連携先の開拓中。活動内容アドバイザーに山口大等の医療福祉関係者(医 師4、専門看護師1、ケアマネ2、社労士1)
高知県	3	患者支援団体への委託。「納得いく医療と巡り合う」ための支援として、希望に 応じてとことん納得いくまで一緒に医師を探す(全国)。希望に応じて診察に 同行(旅費は相談者負担)
沖縄県	4	県拠点内に設置。県内の相談支援センターで担いきれないピアサポート機能の他、ピアサポータ養成、小児がん経験者への活動支援、希少がんの情報提供などの補完
京都府	13	民間委託、ワンストップ窓口、オール京都の相談体制、地域連携の強化。 0120のフリーダイヤルでの相談対応、保健所への出張相談。県職員が責任者 で毎日カンファレンスに参加し、現場の相談状況を把握する。



全国47都道府県の「がん相談の支援体制」のアンケート結果

がんに関するさまざまな相談をワンストップで提供するための組織 (仕組み) は必要だと思いますか



そのような役割を担う「地域統括相談支援センター」や「類似する組織(仕組み)」を

- すでに設けている・・・17県
- 設けていない・・・・・17県

「地域統括支援センター」あるいは「類似する組織」の サービス・活動内容は?



「その他」の内容

- 県内患者会等がネットワークを構築する取り組みの支援 (宮城県)
- がん専用サイトの運営 (千葉県)
- 患者会活動支援(小児がん講演会など)、働く人の日曜相談会(富山県)
- 市民サポーター養成 (石川県)
- 小児がん患者・家族の支援 (福井県)
- 出張サポートセンター (山梨県)
- 講演会、電話相談 (奈良県)
- がんに関する就労支援、がん関連情報の集約と発信、がん患者を家族に持つ子供の支援、
- 就労支援、ウィッグ、マンマ製品展示、外見関連支援 (愛媛県)
- 「心のケア相談員」養成研修の企画・運営 (高知県)
- 小児がん情報提供、希少がん情報提供 (沖縄県)

すでに設けている県で「必要だと思う理由」(抜粋)

- 主治医に知られたくないと患者・家族が感じている内容を相談できる ほか、県内患者会の総合的な支援なども実施できるから。(宮城県)
- 長野県では、がん診療連携拠点病院の未整備な医療圏があるが、 すべての県民がその居住する地域において支援が受けられることが必要。(長野県)
- 治療終了後でも気軽に相談できる場が必要であるため。サロンの運営やボランティアの育成など、地域資源をつくるのは病院内の相談支援センターでは難しいと考えるため。(三重県)
- 病院外の第三者的な立場で、医療面だけではなく、総合的な相談ができる窓口が必要。(山口県)
- 病院に対する不安や不満を直接病院に言いにくいとの声がある。(高知県)
- 住んでいる所の近くに、気軽に足を運べる場所がある方が利用しやすいため。 (宮崎県)



設けていない県で「必要だと思う理由」(抜粋)

- 国の指定するがん診療連携拠点病院、道の指定する準拠点病院の他、患者団体等ががん相談窓口を有しているが、それらを統括し、連携させる役割を担う地域統括相談支援センターは必要であると考える。(北海道)
 - ▶ がん相談支援センターへの来所や電話等によるアクセスが困難な方への対応窓口が必要。
 - ▶ 現在治療中の方でなくても気軽に相談できる窓口が必要
 - ▶ がん医療のみならず、がん予防やがん検診全般について相談・情報提供できる仕組みが必要。
 - ▶ 各がん相談支援センター間や患者団体、関係機関などとのネットワークをコーディネートする機関が必要。
- 患者会やピアサポートの活動支援を行う組織が必要。(茨城県)
- 休日、夜間など病院の受付時間外に相談したい患者・家族への対応が必要と 思われるため。(群馬県)
- 治療の進歩や高齢化等から、医療以外の就労や介護の相談など、複雑多岐に わたる相談が増加していると想像されるため、拠点病院以外での相談窓口や相 談支援センターを支援するようなところが今後必要になると考える。(岐阜県)
- 相談等ができる場所が分散され、拠点病院の業務が軽減される可能性や拠点病院(相談支援センター)との役割分担も図れるため。(兵庫県)



4. がん対策をめぐる動きと、部会としての意見収集

- 1) 第2次「がん対策推進基本計画」中間評価について
- 2) がん対策加速化プランについて
- 3) 患者申出療養について(資料3-2)参照
- 4)制度上・体制上の改善点等、各県で情報収集を行うための準備について
- 5) ディスカッション

4. がん対策をめぐる動きと、部会としての意見収集

- 1) 第2次「がん対策推進基本計画」中間評価について
- 2) がん対策加速化プランについて
- 3)患者申出療養について
- 4)制度上・体制上の改善点等、各県で情報収集を行うための準備について
- 5) ディスカッション

4. がん対策をめぐる動きと、部会としての意見収集

- がん対策をめぐる動きがさまざまに議論されている中で、第3期のがん対策推進基本計画への提案を見据えて、部会として、現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等、提案してはどうか。
- とくに焦点をあてて意見集約した方がいい/したい、といった内容は?
 - 可能であれば、各県の部会でのディスカッションを通して、意見 収集する、あるいは、年度末に意見集約のアンケートを実施
- 第7回情報提供・相談支援部会(H28年5月開催)で集約

【部会設置要領(参考資料1)】

(3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と(連絡協議会を通じて発信することを想定した)提言に向けた素案の作成 47

5. 全国の情報提供・相談支援に関する 好事例

- 1) 滋賀県の取り組み
- 2) 秋田県の取り組み

滋賀県における がん基金の取り組み

~ 共助を支援するツールとしてのがん基金~



滋賀県健康づくりキャラクター 「しがのハグ&クミ」

滋賀県健康医療福祉部健康医療課 がん・疾病対策室 鈴木孝世(本)滋賀県立成人病センター 野中 梓

国と滋賀県のがん対策年表

ライフステージに 応じたがん対策

2013 滋賀県がん対策の 推進に関する条例

改正がん対策基本法

2015 がん対策加速化プラン

2010 滋賀県がん対策 推進議員連盟

がん対策推進計画

2009

1984~

がん対策総合戦略 新がん対策 第3次対がん10カ年 がん克服新10カ年 対がん10カ年

2012 第2次がん対策推進基本計画

2007 がん対策推進基本計画

2006 がん対策基本法

1981 がんが死因の第1位

1962 国立がんセンター設立

がん対策推進協議会 2年 がん診療連携協議会

> 都道府県 がん診療連携拠点病院_。

2009

遅れ

滋賀県がん対策の推進に関する条例(滋賀県がん条例)



- ・がん関連事業の包括的/効率的な展開
- ・関係組織間の強い連携
- 典励を支援する原資獲得

共助:助け合う精神

医療提供者よし



三方よし

Mother Lake

地域よし

患者・家族よし



三方よし:売り手よし買い手よし社会よし 5

がん対策推進基金(がん基金)事業

がん条例の趣旨を踏まえ、既存の一般施策では十分に対応できない部分について重点的かつきめ細やかに取り組みを進めるために設置

設置主体	滋賀県	
基金名称	滋賀県がん対策推進基金	
設置年月日	平成26年4月1日	
設置当初の基金総額(形態)	億円(取崩型)	
出資	滋賀県	
対象となる事業	民間団体等が取り組む 自主事業(共助)	

採択基準

- ①民間主導となっていること
- ②事業内容が明確で、継続的に事業が実施できること
- ③事業の効果が期待できること

がん基金による支援対象事業

がん対策加速化プラン提言のうち 民間活力による「予防」「共生」関連事業

- がんの予防 がんの予防/検診にかかる啓発にかかる事業 子供から大人までの、がん教育にかかる事業
- がんとの共生

がん相談:休日/時間外における相談事業

緩和ケア:患者の意思決定支援事業

グリーフケアの充実を目指す事業

患者力の開発/育成/醸成にかかる事業

平成27年度採択事業一覧

がんに関する情報を効果的に、かつ、年間を通じて県民に発する事業 450

患者会: HPの作成/更新

がん相談NPO: 患者/家族を対象とした学習会の開催

公立図書館協議会:講演会/研修会の開催がん情報冊子の作成

がん予防の普及や啓発のための事業

373

RFLJ滋賀: がん予防/検診にかかる啓発活動

健康づくり財団: 事業所における女性がん検診推進事業

患者会:

- 患者力養成のための情報発信と講演会の開催

・グリーフケアの実施 ・乳がん総会の開催

・小児がん親子サロンの開催

デイキャンプ/サマーキャンプの開催

・乳がん検診率向上イベントの開催

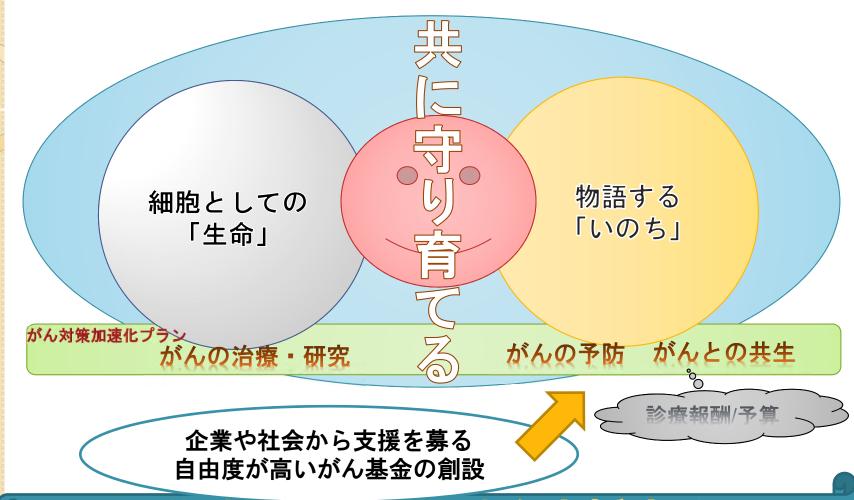
休日や夜間に行うがんに関する相談事業

50

がん相談NPO: 時間外・休日のがん相談の実施

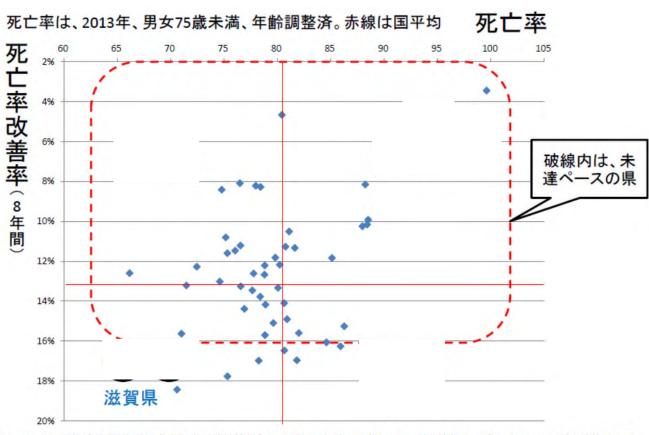
グリーフケア/がん電話相談の実施

望ましいがん医療の姿を求めて



共助でもって共助を支援する がん基金は共助を支援するツールである

がん年齢調整死亡率の改善度



データソース:人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部)、出典:国立がん研究センターがん情報サービス、加工:NPOがん政策サミット

5. 全国の情報提供・相談支援に関する 好事例

- 1) 滋賀県の取り組み
- 2) 秋田県の取り組み

2015 秋田県がん診療連携協議会 がん患者相談部会の取り組み

~ONE FOR ALL, ALL FOR ONE~





平成27年12月8日

秋田大学医学部附属病院

地域医療患者支援センター・がん相談支援センター

秋山 みどり



秋田県 がんによる死亡率ワースト

<重点課題>

- 1. がんの予防とがん検診の受診率及び質の向上
- 2. 質の高いがん医療の提供
- 3. がんと診断された時からの緩和ケアの実施
- 4. がんに関する相談支援と情報提供の充実
- 5. がん登録の充実
- 6. 働く世代と未来を担う子どもに対するがん対策の充実



一秋田県がん診療連携協議会一がん登録部会、緩和ケア・教育研修部会、 がん地域連携クリティカルパス、がん患者相談部会、 臨床支援部会、医科歯科連携部会



秋田県内の がん相談支援センター

秋田大学医学部では大学を学問である。

秋田赤学をである。

大学をである。

大学をである。

大学をである。

大学をである。

大学をである。

大学をできる。

「はいきるをできる。

「はいきるをできる。

「はいきるをできる。

「はいきるをできる。

「はいきるをできる。

「はいきるをできる。

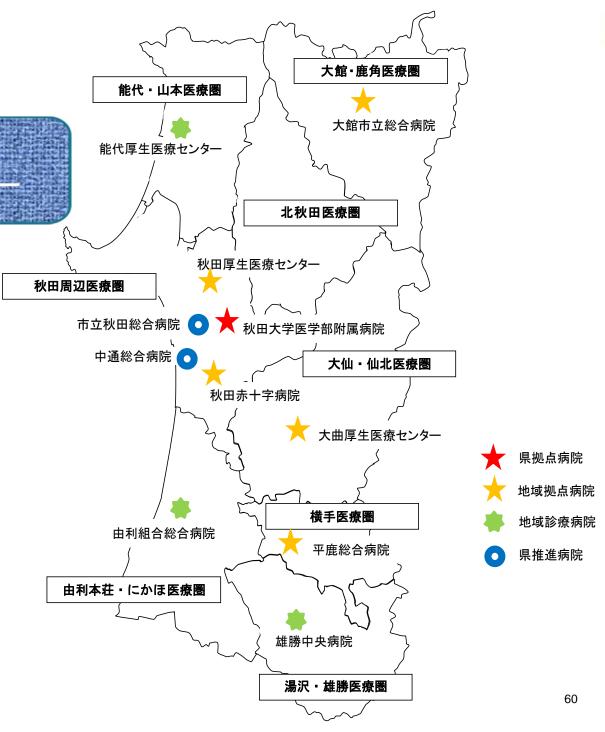
「ないきるをできる。

「ないきるをできる。
「ないきるをできるとないる。

「ないきるをできるとないるできる。

「ないきるをできるとないものできる。

「ないきるをできるとな





がん患者相談部会

- *がん相談員担当者会 2回/年
- * 指定要件を満たす
- *業務内容の充実を目指す

就労支援WG

がん患者や家 族が安心して 事と治療が、各 できるよう、各 療機関におって 療機就労の充実を図る

研修企画WG

がん相談員の レベル向上と 質の確保を図 る

広報·情報WG

がん相談支援センターがリソースとして根付き、患者・家族が必要とする時にいっても利用できることを目指することを目指す



就労支援WG

☆がん患者の就労に関するアンケートを実施

(秋田県健康福祉部がん対策室との協働)

・対 象: 県内拠点病院通院中の①がん患者および②家族

③県内拠点病院でがん診療に携わる医師

④県内企業500社

•期 間: 平成27年7月末~8月末(1か月間)

・方 法: 県内拠点病院がん相談支援センターを通じて

がん患者および家族、医師に用紙を配布、回収

県内企業には、県がん対策室より用紙を配布・回収

<回収結果>

- ① 525名(男性234名、女性291名) ② 195名
- ③ 284名 ④260企業

詳細な分析は、これから



☆ 就労支援フォーラム開催

テーマ: 就労支援研修会~磨こう! 就労支援スキル~

日 時: 平成27年11月20日(金)13:00~16:35

対 象: 医療機関においてがん相談支援に携わる者

内 容: 1)がん患者就労支援の概要

2)がん患者就労支援の実際(社会保険労務士)

3)秋田県におけるがん患者の就労状況 秋田県内医療機関の就労支援の実際

4)グループワーク

「がん患者就労支援における社会保険労務士との連携」

がん相談支援センターと社会保険労務士が 電話一本で繋がれるような連携体制をとっ ていければ良いとのお話をいただきました。





研修企画WG

☆ がん相談指導者研修

7名受講

秋田県がん診療連携協議会の理解・協力

相談員のやる気

☆ 秋田県内初の研修会開催に向けて、企画立案と実施

テーマ:秋田県のがん相談連携を強化しよう!

日 時:平成28年2月19日(金)13:00~16:00

対 象:秋田県内のがん相談支援に携わる者

内 容:1) 各がん診療連携拠点病院の現状報告と

質疑応答(第一部、第二部) 計11施設

2) がん相談空白地域からの現状報告

各病院の特性を知り、相談員同士のネットワーク強化を図る



広報·情報WG

- ☆ 周知とPR活動
- ☆ 統計の県内統一
- ☆ 相談員のネットワーク強化

<主な活動内容>

1) 「あきたがんささえ愛の日」

出張がん相談 PR活動 (6月7日 in アルヴェ)







2) ラジオドラマ「明日への扉」放送(6月~8月末)

「再発の心配 夫婦」 「医療費の心配」 「緩和ケア」 「がん診療連携拠点病院」



7:50~7:55

17:40~17:45

3) 県内がん相談員によるラジオ情報コーナー (7月末~8月末)



医師、看護師、MSW 県がん対策室等 総勢20数名の協力





あなたのそばに がん相談支援センター

5) 第一生命&国立がん研究セミナーでの 相談支援センター案内ブース担当 (10月1日)





6)「あきたのがん医療」冊子の改定

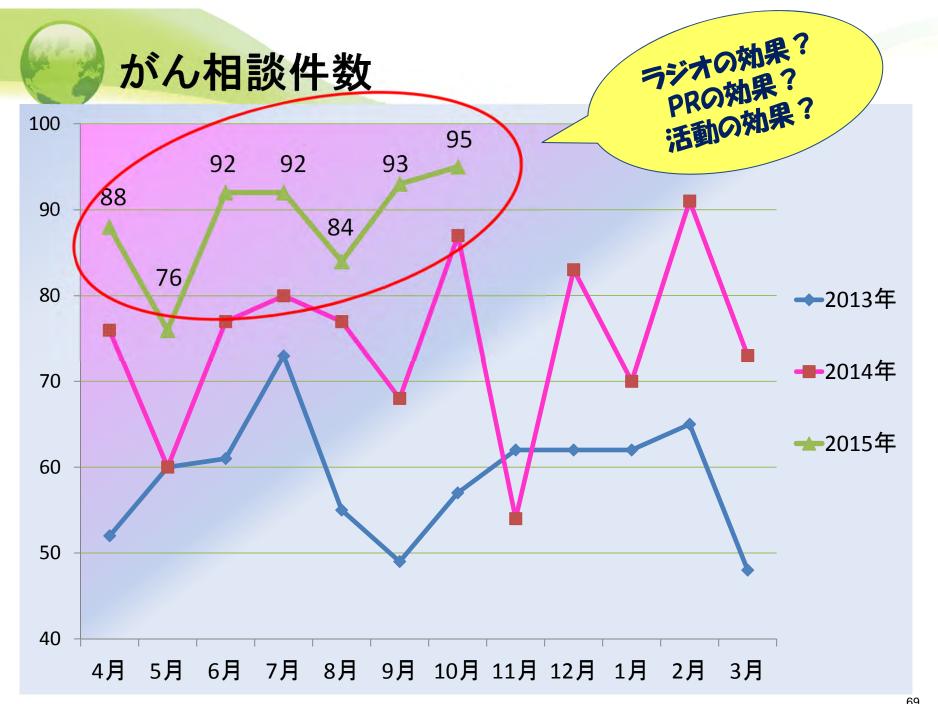
来年もパレードに参加しよう!

相談支援センター名 を入れたティッシュを 作って配布しようか Tシャツを 作ろうか



出張がん相談 キャラバン隊を 作って、 県内を回ろうか







- 1) 3つのWGに分かれて活動したことは、大変有益だった
- 2) 活動目標達成のために、
 - ☆ 責任を持って、意欲的に取り組むことができた。
 - ☆ 個々の持っている知識・能力を発揮しながら WGメンバーとしての役割を担うことができた
 - ☆ 県内がん相談員同士の絆が強まった
- 3) 国立がん研究センター、秋田県がん診療連携協議会、 秋田県健康福祉部がん対策室のご協力とご理解により、 顔の見える関係を築き、より良い活動に繋げることができた

~2015 エピローグ~

秋田県がん診療連携協議会 がん患者相談部会では、 今後も協働し、がん相談・情報提供の充実に取り組みます

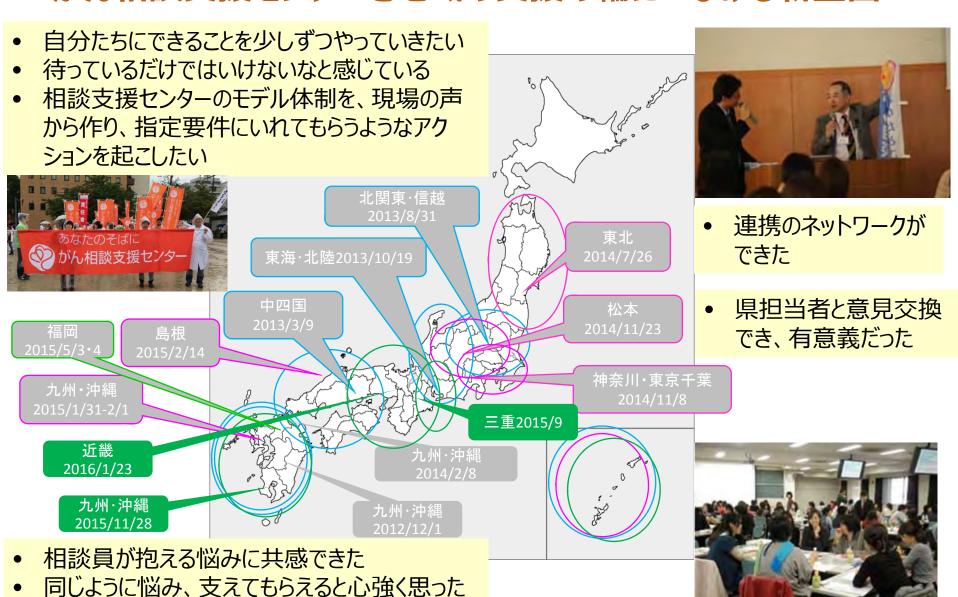


ONE FOR ALL, ALL FOR ONEを大切に 人・地域・社会とつながり 寄り添う支援を目指す

6. がん対策情報センターからのお知らせ等

- 1) 平成27年度地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画 開催報告・進捗報告
- 2) 平成28年度域相談支援フォーラム採択企画
- 3) 平成28年度相談員基礎研修他の開催予定

地域相談支援フォーラム・ワークショップ がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画



「相談員サロン」のように感じた

地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画 各地での取り組み ~H27年度企画~

地域相談支援フォーラム in 鹿児島 がん相談支援センターのステップアップ~周知と協働をめざして (2015/11/28)

鹿児島県がん相談支援部門会

がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画 みのりカフェ@三重 (2015/10/16, 2015/12/11, 2016/2/12)

三重県がん診療連携協議会がん相談支援部会

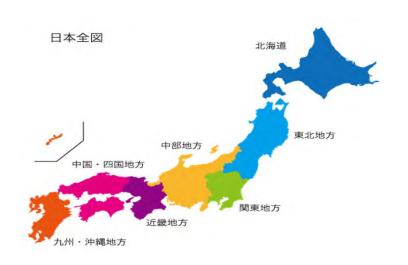
地域相談支援フォーラム in 近畿

がん患者団体との「連携」と「協働 (2016/1/23)

近畿ブロック6府県(大阪・兵庫・京都・滋賀・奈良・和歌山)

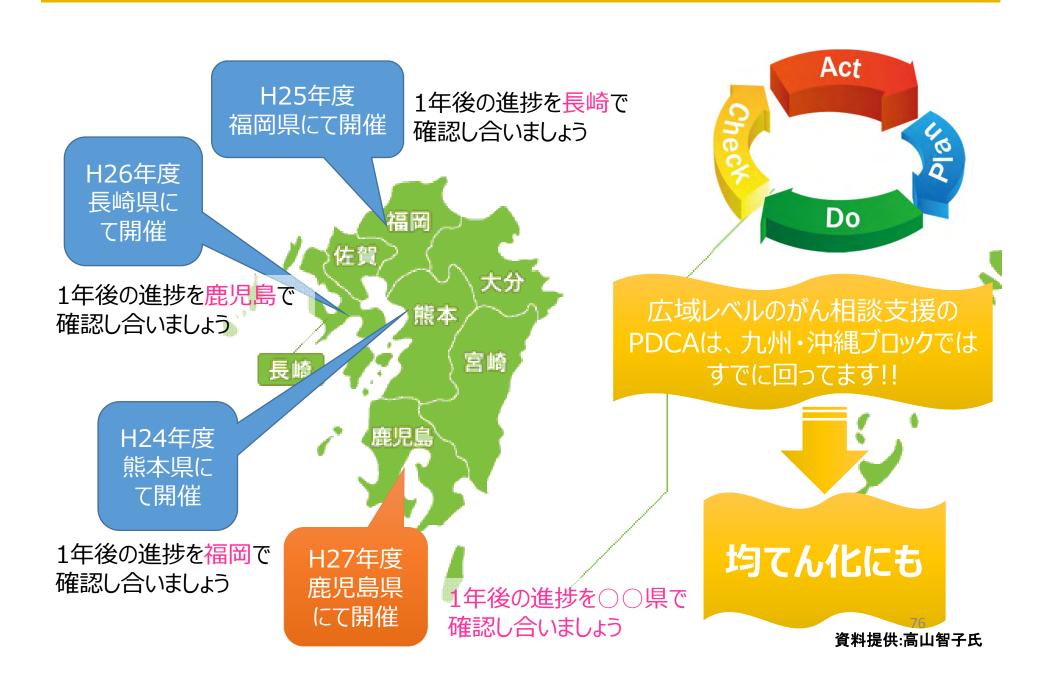
がん診療連携協議会相談支援関連部会

第4回 九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラムin鹿児島 2015. 11. 28



鹿児島大学病院 がん相談支援センター〇田畑 真由美野村 瑞穂

九州・沖縄ブロックの地域相談支援フォーラム



経緯:「長崎県の次は・・・・・・鹿児島で!」

- →2015年9月: 共催団体採択を受けるために企画書作成!
- →採択不可の場合も実施可能な企画案を立案!
- →鹿児島県がん診療連携協議会の協力も依頼!

保障

【企画案を考える上で鹿児島の課題・問題】

- 患者・家族の生活を支援している各地域の医療・福祉・介護の専門職種 との連携が、まだ効果的に行われていない
- 県民のニーズに、相談支援センターは応えることができているのか?



テーマ「がん相談支援センターのステップアップ」 ~周知と共働を目指して~

組織づくり・・・・・鹿児島県相談員全員参加で

〇コアメンバー会議: 13回

- •指導者研修終了者:4名
- •拠点病院1名
- •行政1名
- ・国立がんセンターの支援者:2名

〇実行委員・全体会議: 5回

- 県内21カ所拠点 指定病院相談員
- •NPO法人がんサポートかごしま(患者会)

事務局班

進捗状況の把 握・事務処理

会計広報の担当

渉外班

講師の調整・交 渉

情報誌の作成

アンケート 班

アンケート企画・ 作成

アンケート結果 報告

研修企画班

研修内容企画

親睦会係

活動経過

	2014 9月	10月	11月	12月	2015 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	科	10月	11月	
メンバー	①コア会議	③コア会議	4合同会議		⑤コア会議	長崎フォーラム参加		⑥コア会議	プコア会議	8コア会議	9コア会議	⑪コア会議	⑫合同会議(長崎県1名参加)	15合同会議	(f) コア会議 :	18最終会議(九州・沖縄・OB/宮城県・国がん)
実県行内						ム参加			C Dear	000			長崎県1名			州·沖縄·OB/宮‡
実 県 行外													参加)	100	natura (城県・国がん)
活動内容	・ 県がん診療連携協議会へ報告・ 実行委員選出・ 企画案作成	・フォーラム「共催団体採択決定」	【前年度開催県:長崎県の報告】・県内実行委員へフォーラムの主旨説明	・大会会場の選出・予算案の作成	・講師の選出・日程調整【渉外班】	・アンケート用紙の作成	・カアンケート容の倹討【アンケート班)	・グループワークの構成・内容の検討【研修・企画班】			・案内状の送付	・ポスター作成・スケジュール表・マニュアル表の作成	- 合同会議【長崎県:安藤さん同席】	・国立がん情報サービスホームページアップ【研修企画班】全体シュミレーション	・グループワークの内容修正 79・宮城県ニフィン・1	・宮成県コアメンバーとの意見交換を・最終打ち合わせ【スケジュール確認】

平成27年度

地域支援フォーラム in 鹿児島

テーマ: がん相談支援センターのステップアップ ~ 周知と共働を目指して~

開催日時:平成27年11月28月(土) 9:00~16:30

会 場: 鹿児島県市町村自治会館

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番4号(県庁前)

【プログラム】 <u>午前の部 9:00~12:00</u>

開会挨拶 鹿児島大学病院院長 熊本一朗 国立がん研究センターがん対策情報センター 若尾文彦

①九州各県のがん相談支援センターの取り組み・活動状況報告

「がん相談支援センター周知度アンケート結果と考察について」 鹿児島県の取り組み報告:鹿児島大学病院MSW 野村瑞穂

②特別講演:「聴く・聞く・訊く」 浄土真宗本願寺派善福寺住職 長倉伯博

午後の部 13:00~16:30

③「聴く・聞く・訊く」をテーマにグループワーク

~「きく」ために私たち相談員ができる(すべき)こと~

④九州・沖縄相談員サロン:今語りたいこと、困っていることを話そう!

- 患者団体の立場から
- 各県の行政の立場から
- 総評 国立がん情報センター

共催: 鹿児島県がん診療連携協議会、九州・沖縄フォーラムin鹿児島実行委員会 独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター 20

後援:鹿児島県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、沖縄県、(順不同)

閉会挨拶 鹿児島県がん相談支援部門会長 上野真一

①各県の取り組み発表(一部抜粋)



○沖縄県:ITを利用したケア会議開催 (八重山病院)



○宮崎県:相談支援専門部会設置規程を作成

区分	氏名	所識
産長	相藤 絹代	熊本字圖大学 社会福祉学部社会福祉学科准教授
类员	を 美樹	熊本大学医学部附属病院 がん相談支援センター副者護師長
委員	加島 裕士	熊本県経営者協会専務理事
Ø A	ながの トナム 長野 加寿美	熊本県社会保険労務士会社労士
委員	福山 幹也	熊本労働局職業対策課課長補佐
委員	まつだ ようこ 松田 陽子	がんサロンネットワーク熊本理事
	ALC AGS	熊本県がん診療連携協議会
委員	吉田 稔	相談支援・情報連携部会 (能本赤十字病院血液・腫瘍内科部長)

○熊本県:がん相談支援向上対策会議 (就労支援対策)



○長崎県:がんと向き合う サポートブックながさき



○福岡県:「がん相談支援センターを 地域の支援の輪につなげる新企画」 「博多どんたく」参加



○佐賀県: リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015佐賀



○大分県:市立図書館へがん情報 患者サポートブックなどの設置依頼

目的:各県のがん相談支援のこの1年間の新たな取り組みを知る。

- ①行政との連携
- ②がん相談支援センターの広報活動
- ③がん相談支援センターの新たな取り組み
- ④PDCAサイクルの現状

81

①鹿児島県アンケート班の取り組み発表

「周知度アンケートから見えてきたもの」

目的:『がん相談支援センター』が、医療・保健・福祉の各分野に従事している 専門職種にどの程度認識されているかを把握する。

①がん相談支援センターを知っている ②がん拠点・指定病院を知っているか?

③所属先の二次医療圏を知っているか? ④相談内容・役割を知っているか?【10項目の質問用紙を作成】

結果:

- 所属する医療圏・拠点/指定病院の周知度は、71.3%・62.2%
- 「医療相談」の周知は、97.6%
- 「がん相談」の周知は、51.1%
- 設置場所の周知は、69.1%
- □ 今回の調査で『がん相談支援センター』の役割を地域の医療・保健・福祉の各分野に従事している専門職に周知出来た.
- □ 定期的に、今回と同様のアンケートを実施することで、周知効果の確認が期待できる.
- □ アンケート結果より、相談支援センターの周知に向けた取り組み・目標を設定したうえで、対策立案から実施へとつなげていくことが今後の課題。

②特別講演:「聴く・聞く・訊く」



浄土真宗本願寺派善福寺住職 長倉伯博先生講演 「響感」 相談に来てくれてありがとう



笑いあり、涙ありの感動の講演でした



昼休憩:患者会 P R スライドショー上映



鹿児島の幸を盛り込んだお弁当 好評でした。 83

③~"きく"って何だろう~ ~きくために私たち相談員ができる(すべき)こと~

自主制作の2つの場面のDVDを見てグループワーク①不安を多く表出する患者②怒りの表出がある患者 【目標】

- (1)相談員として"きく"ために、どんなことを大切にしてきくか、参加者全員で考える機会をもつ。
- (2)"きく"という意味を理解し、スキルアップを図る。
- (3)セルフケアの大切さを知る。

【検討内容】①あなたは、どんなことを大切にして、相談者の語りをききましたか。

- ②あなた自身の心の動きは、どうだったでしょうか。
- ③あなたは"きく"ために、セルフケアをどのようにしていますか。



【ワーク導入】



【15G:グループワークの様子】



【全グループ(15G):1分発表】84

4相談員サロン「今、語りたいことを話そう!」

長倉先生の講演:相談員としてどうきく? グループワークで検討した相談員のセルフケア! 相談員サロンでは、心ケアを県境を越えて語り合う!







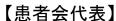




患者会・行政の方もグループワークに取り組んでいただきました。 患者会: 鹿児島県、福岡県、長崎県、宮崎県、熊本県、大分県 行政: 長崎県、佐賀県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県

患者会・行政の方より参加してのお言葉を頂きました。







【各行政の方々】



【総評:高山智子先生】



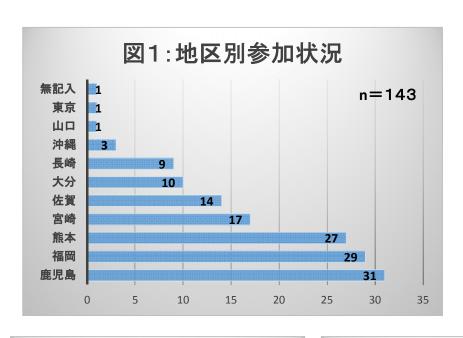
【閉会あいさつ:上野真一先生】

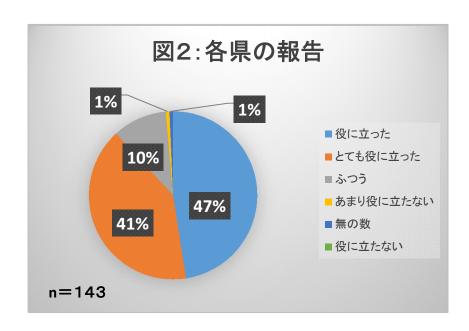
地域がん相談支援フォーラムの

九州・沖縄ブロックでのテーマと共有できたことの変化

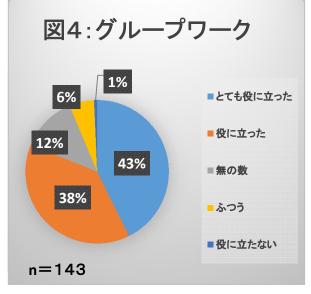
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
開催場所	熊本県	福岡県	長崎県	博多どんたく イベント (福岡県)	鹿児島県
相談員 九州·沖縄8県	103名	131名	124名(1日目) 116名(2日目)	70名 全国から	201名 九州·沖縄·山口·東京·宮城
行政担当者	5名	9名	6名	1名	9名 (鹿児島·宮崎·熊本·佐賀·長崎)
部会責任者	_	6名	7名	1名+多数	4名(長崎・宮崎・沖縄・鹿児島) 4名(鹿児島大学・鹿児島医療センター ・今給黎病院)
患者団体から	_	_	4名	3-4名	12名(8団体) (鹿児島·宮崎·熊本·大分·福岡)
メインテーマ	院内体制の違い から学ぶ、 <mark>院内</mark> で認められ地域 に根付くために	院内外の人に知って もらうための <mark>味方づく</mark> り	離島・がん医療空白 地帯の現状を知ろう 相談者を支えるネッ トワークづくり	(案内入り)ティッシュ 10,000個 風船1,000個配布 出張がん相談 パレード 100名	「がん相談支援センターの ステップアップ」 〜周知と共働を目指して〜
学んだこと・ 共有できたこと (一部)	相談員同士が <mark>顔の見える関係</mark> を築いていくこと	あるべき姿のビジョン を持って病院幹部と 話をしていくことが大 切	相談員が人と人、機 関と機関の間に介 在することで積極的 な調整を行うこと	相談したい人はどこ にでもいる、気軽に 暮らしの中で話せる がん	きく"って何だろう~ ~きくために私たち相談員 ができる(すべき)こと~ 86

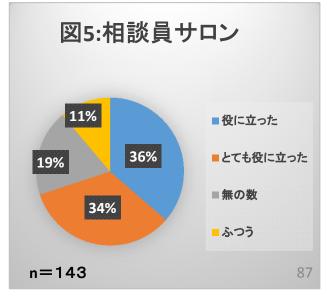
終了時アンケート結果 (201名参加者中:回答者143名)











今後の課題

- ▶相談員全員で取り組み、協議の場を多く設けたことにより、相談員同士の信頼関係が深まりチーム強化に繋がった。この機会をチャンスと捉え、今後部門会開催の機会を増やし、相談員同士の語りの場を保ちつつ、更なる相談員ネットワークの強化を目指す。
- ▶地域の医療者とのネットワークを維持・強化しながら、がん相談支援 センターの利用者増を目指す。
- ▶今回のフォーラム開催を受けて、各々が役割機能を果たせたことにより、グループ活動が対応可能になったと考え、がん相談支援部門の活動を充実させるために、教育、広報、地域連携の3つのワーキンググループを立ち上げ、より細かなPDCAサイクルに取り組み、がん相談支援部門の発展を目指す。

告知

次回開催県が決定しました。



来年の「九州・沖縄ブロック・フォーラム」は 全国の皆さんの参加を 沖縄でお待ちしております。



これまでご支援いただいたすべての方々に感謝申し上げます。 鹿児島県がん相談支援部門会一同



地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画 各地での取り組み ~H27年度企画~

地域相談支援フォーラム in 鹿児島 がん相談支援センターのステップアップ~周知と協働をめざして (2015/11/28)

鹿児島県がん相談支援部門会

がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画 みのりカフェ@三重 (2015/10/16, 2015/12/11, 2016/2/12)

三重県がん診療連携協議会がん相談支援部会

地域相談支援フォーラム in 近畿 がん患者団体との「連携」と「協働 (2016/1/23)

近畿ブロック6府県(大阪・兵庫・京都・滋賀・奈良・和歌山)

がん診療連携協議会相談支援関連部会

「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」 in 三重

みのりカフェ@三重 開催報告

三重県がん診療連携協議会 がん相談支援部会 三重大学医学部附属病院 がん相談支援センター 鈴木志保子

実行委員会の開催

主催:三重県がん診療連携協議会 がん相談支援部会

実行委員:13名

国拠点病院8名、県拠点病院3名、三重県がん相談支援センター1名、

三重県健康づくり課 1名

実行委員会:6回開催

カフェについての学習会も実施

開催目的

①がん相談支援センターの周知

②がん患者・家族への支援体制の輪の構築

内容

第1部 がん相談支援センターに関する講演 (取り組み・役割)

がん患者・家族にかかわるスタッフへ情報提供することで、患者・家族が必要時にがん相談支援センターを活用できる

第2部 テーマに添った話し合い(ワールドカフェ)

施設間、職種間の橋渡しを行い、気軽に意見を出し合い、話し合いができる場を提供する

開催予定

県内地域を3ブロックに分け それぞれのブロックで開催

★ブロックごとの開催責任者 を決める

第2回

中**勢ブロック** 平成27年12月11日(金) 18:30~20:30

場所:三重大学医学部

附属病院

第3回 北勢ブロック

平成28年2月12日(金)

18:30~20:30

場所:市立四日市病院

第1回

南勢ブロック

平成27年10月16日(金)

18:30~20:30

場所:伊勢赤十字病院

平成27年度「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」in三重

みのりカフェ@いせ

テーマは、がん患者さんとご家族をささえる「支援の輪」。 日ごろ感じている思いや願いなど、カフェ風のリラックスできる場に集 まって語り合ってみませんか。みんなで実りの多い会にしましょう。

日時 平成27年10月16日(金)18時30分より

場所 伊勢赤十字病院1F 多目的ホール やまだ

対象者 がん患者さんとご家族のケアに関わる方 50名 医療・介護・福祉・行政の関係者など

※ 事前申込をお願いします。 9月25日(金)締切、空きがあれば当日参加も可とします。 参加費無料

お問い合わせ・申込:伊勢赤十字病院内 南勢地域緩和ケアネットワーク事務局 TEL 0596-65-5002 FAX 0596-28-2965

(総務課:前田)

主催:三重県がん診療連携協議会がん相談支援部会

共催:国立がん研究センターがん対策情報センター、南勢地域緩和ケアネットワーク、三重大学がんセンター

後援:三重県、三重県医師会、公益社団法人三重県看護協会、三重県訪問看護ステーション連絡協議会、

三重県薬剤師会、三重県病院薬剤師会、三重県介護支援専門員協会、三重県医療ソーシャルワーカー協会

協賛:住友生命保険相互会社

第1部 がん相談支援センターの紹介

がん相談支援センターを関係機関の方に まずは知っていただく



患者・家族に紹介し、相談につなぐ 関係機関からの相談

県内がん相談支援センター紹介パンフを作成し配布

		0.00 m.			
三重県内の	●相談支援センター	Constitution The State of the Constitution of			
がん相談支援センター	① いなべ総合病院	H~92	1511-0429-04公市北勢町阿下自771		
	患者サポート窓口・がん相談支援センター	8.30~16.30±/.	4-089年北-2000(元表)		
=E_176_20 = 0	② 桑名西医療センター 地域医療連携室・相談支援センター	月~章 9:00~16:30	〒511-0619 英名市大学北別所416-1 〒0594-22-7111(代表)		
① いなべ総合病院 ② 桑名西医療センター)	③ 四日市羽津医療センター がA相談支援室 地域連携室「すずらん」	月~卷 9:00~17:00	〒510-0016 四日市市羽津山町10-8 〒059-331-6003(香通)		
③四日市羽津医療センター (市立四日市病院)	④ 市立四日市病院	月~金	〒510-8567 正 清市芝田2丁目2-37		
	地域連携・医療相談センター「サルビア」	8:30~17:00	〒059-354-11 1 (代表)		
⑤ 県立総合医療センター	⑤ 県立総合医療センター	月~金	〒510-8561 四日市市大学日永5450-132		
	地域連携課 かけはし	9:00~16:30	☎059-345-2321(代表)		
① 鈴鹿回生病院 ① 伊賀市立上野総合病院 ② 台藤中央総合病院	6 鈴鹿回生病院 医療相談室・がん相談窓口	月~金 9:00~17:00	〒513-8505 鈴鹿市国府町112-1 ☎059-375-1212(代表)		
(1) 三重大學医學照附軍務院	7 鈴鹿中央総合病院	月~金	〒513-8630 鈴鹿市安塚町山之花1275-184		
	医療福祉相談センター がん相談支援センタ	8:30~16:30	☎059-384-2226(直通)		
(1) 三重中央医療センター (1) 三重県がん相談支援センター	8 伊賀市立上野総合市民病院	月~金	〒518-0823 伊賀市四十九町831		
	地域医療連携室(がん相談支援窓口)	9:00~17:00	☎0595-41-0061(直通)		
包 松阪中央総合病院	 ・ 三重大学医学部附属病院 がA相談支援センター 	月~金 8:30~17:00	〒514-8507 津市江戸橋2丁目174 ☎059-231-5434(首通)		
(月洛生会松阪総合病院)	⑩ 三重県がん相談支援センター	月~金・第1日曜日 9:00~16:30 第1日曜日翌日の月曜日は休み	〒514-8567 津市桜橋3丁目446-34 20059-223-1616		
(6 伊勢赤十字病院)	10 三重中央医療センター がん相談支援センター	月~金 8:30~17:00	〒514-1101 津市久居明神町2158-5 ☎059-259-1211(代表)		
(1) 尾藍総合病院) (1) 市立伊勢総合病院)	12 松阪中央総合病院	月~金	〒615-8566 松阪市川井町字小望102		
	医療福祉相談室(がん相談支援センター)	8:30~16:30	☎0598-21-5252(内線 2249)		
	13 済生会松阪総合病院	月~金	〒615-8557 松阪市朝日町一区15-6		
	医療相談支援センター	9:00~17:00	〒0598-52-1533(吉通)		
31 駅) がん患者さんとご家族	孤阪市民病院	月~金	〒515-8544 松阪市殿町1550		
	地域連携課 がら相談窓□	9:00~17:00	〒0598-23-1515(代表)		
・地域の関係機関など	5 伊勢赤十字病院	月~金	〒516-8512 伊勢市船江1丁目471-2		
(スクップ) 看護師	がA相談支援センター「がAの相談窓口;	9:30~17:00	☎0596-65-5151(香通)		
・ソーシャルワーカー など	16 市立伊勢総合病院	月~金	〒516-0014 伊勢市楠部町3038		
(祖記・日用) 無料	地域医療道携課 がA相談支援窓口	9:00~16:00	〒0596-23-5111(代表)		
※相談内容が外部に最れることはありませんので	① 尾鷲総合病院	月~金	〒519-3693 尾鷲市上野町5-25		
ご安心ください。	地域連携室 患者相談室・かん相談支援等	9:00~16:00	☎0597-22-3111(代表)		

第2部 ワールドカフェ

カフェのテーマ 「支援の輪」

- ■「支援の輪」を拡げるのに大事なこと
- 「支援の輪」をつくるうえの困りごと



参加者数

52名

職種:看護師 20 社会福祉士 9 医師 7 薬剤師 5 ケアマネージャー 5 臨床心理士 3 理学療法士 1 その他 2









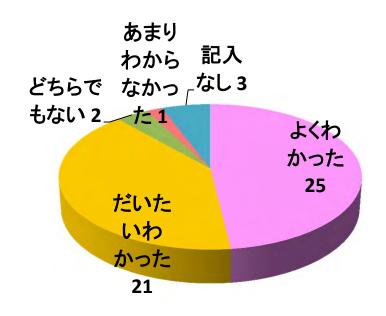
みのりの収穫(話し合いからの意見)

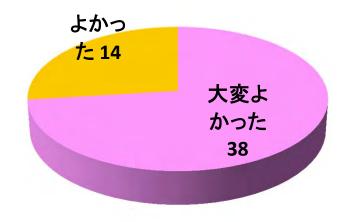
- ◆ 一人では援助できない。無力を感じることもある
- ◆ 相談しやすい雰囲気をつくっていきたい。相談して 良かったと思えるようにする。「行ってください」ではなく "つなぐ"ことを意識する
- ◆ 必要なときに必要な情報を伝えることが大切
- ◆ 皆さんの生の声がきけて良かった
- ◆ こんなに真剣に患者さんのために何とかしようと考える 人がいる。すごい
- ◆ 他職種が何ができるかをお互いに知る必要がある
- ◆ 多職種のチームが各地域をまわれると良い
- ◆ いろいろな職種が集まれる場、気軽に話せる場が必要

参加者アンケート

がん相談支援センターについて

今回のカフェについて





参加者アンケート

- <自由記載>
- ◆支援の輪をつなげるにはどうしたらよいかを、多職種の方と様々な 視点で話ができた
- ◆各職種で「何ができるのか」を追求していくことが大切、 もっと自分 たちの職種をアピールしていきたい
- ◆さまざまな立場の方の話を聞き、自分の視点を拡げることができた
- ◆同じ想いを持った方がたくさんいることがわかった
- ◆職種は違っても患者を支える気持ちは同じだとわかった
- ◆他の方の熱意を感じ、自分も頑張らなければと思った
- ◆今日の学びを生かして支援の輪をつなぐ一人になりたいと思った
- ◆多職種の顔が見える会ができてよかった
- ◆リラックスした雰囲気の中で気軽に話し合いができた
- ◆これからも定期的に開催してほしい

評価

- アンケートの結果から、開催目的の1つである相談支援センターの周知は、ある程度 達成できた
- 話し合いにおいては、困りごとについて、 解決していけそうな意見も出て、みのりの 収穫もできた

今後の開催に向けて

参加者から、多職種・多機関で話し合いができたことの評価がとても高かった。 今後の開催においても、多職種・多機関への参加を呼びかけていく

地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画 各地での取り組み ~H27年度企画~

地域相談支援フォーラム in 鹿児島 がん相談支援センターのステップアップ~周知と協働をめざして (2015/11/28)

鹿児島県がん相談支援部門会

がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画 みのりカフェ@三重 (2015/10/16, 2015/12/11, 2016/2/12)

三重県がん診療連携協議会がん相談支援部会

地域相談支援フォーラム in 近畿 がん患者団体との「連携」と「協働 (2016/1/23)

近畿ブロック6府県(大阪・兵庫・京都・滋賀・奈良・和歌山)

がん診療連携協議会相談支援関連部会

平成27年度 「地域相談支援フォーラムin近畿」 開催の進捗状況

独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター がん相談支援センター 副センター長 藤井 照代

「地域相談支援フォーラムin近畿」 概要

趣旨

□本フォーラム相談員研修では、がん相談支援センターの相談員ががん 患者団体とどのように「協働」し、新たな社会資源を構築するのか、 また、がん患者団体と相談支援センターの各々の強み、弱みを補完す る「連携」とはどのようなものなのか、その答えを模索する

テーマ: がん患者団体との「連携」と「協働」

プログラムへ

午前の部

■基調講演

テーマ:がん診療連携拠点病院とがん患者団体とのより良い 「連携」と「協働」のために

- ① がん診療連携協議会長の立場から/大阪府がん診療連携協議会長 松浦 成昭
- ② 患者支援団体COML理事長の立場から/ NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子
- ■パネルディスカッション

テーマ:がん患者団体が、がん相談支援センターに期待する連携と協働とは?

- ① 口腔・咽頭がん患者会/三木 祥男氏
- ② ゆずりは/宮本 直治氏
- ③ 滋賀県がん患者団体連絡協議会/菊井 津多子氏

午後の部

■6府県からの報告

テーマ:地域におけるがん患者団体等との連携と協働の現状について

■グループワーク

テーマ:府・県内のがん相談支援センターががん患者団体と 「連携」・「協働」する際にすべきことは何か?

サブテーマ①ピアサポートの効果と活用

- ②がん患者会との連携
- ③がんサロンの運営
- ④地域活動の企画

採択決定後から現在までの経緯

回数	月 日	内容	メンバー
平成26年10月24日		応募採択通知あり	
第1回	平成26年11月18日	開催に向けての打合せ 開催日時決定、開催概要検討	共催メンバー
第2回	平成27年 1月29日	近畿6府県フォーラム内容について協議 開催場所決定、企画内容確認	実行委員会 (暫定メンバー)
第3回	平成27年 5月22日	第1回 準備打合せ会 プログラム、今後のスケジュール検討	共催メンバー
第4回	平成27年9月25日	第2回 打合せ会 プログラム詳細・役割分担決定	共催メンバー
平成27年10月28日		開催概要公開・参加募集開始	● 募集要項へ



今後の予定

平成27年12月10日 申し込み期限

平成27年12月16日 実行委員会打ち合わせ

平成27年12月中 抄録集作成のため各講演者、各府県発表者へ 抄録(500字、800字以内)提出を依頼

平成27年1月23日 開催当日 、抄録集配布

平成27年度

地域相談支援フォーラム in 近畿

全体テーマ:がん患者団体との「連携」と「協働」

開催日時: 2016年1月23日(土) 10:00~16:30 (開場 9:30)

会 場: TKP ガーデンシティ大阪梅田 TEL:06-4400-5236

〒553-0003 大阪市福島区福島 5-4-21 TKP ゲートタワービル バンケット 11A

午前の部



プログラム 🐧 🛚



10:00 ~ ■開会挨拶

国立がん研究センター がん対策情報センター長 若尾 文彦

10:05 ~ ■基調講演

テーマ: がん診療連携拠点病院とがん患者団体とのより良い「連携」と「協働」のために 座長 大坂将立成人病センター 相談支援センター長 東山 聖彦

① がん診療連携協議会長の立場から/大阪府がん診療連携協議会長 松浦 成昭

② 患者支援団体 COML 理事長の立場から/

NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子

11:35 ~ ■パネルディスカッション

テーマ:がん患者団体が、がん相談支援センターに期待する連携と協働とは? 座長 兵庫医科大学ささやま医療センター 地域総合医療学 准教授 大松 重宏 和歌山県立医大附属病院 福岡 友里子

① 口腔・咽頭がん患者会/三木 祥男氏

② ゆずりは/宮本 直治氏

③ 滋賀県がん患者団体連絡協議会/菊井 津多子氏

12:20 ~ ■質疑応答

12:40 ~ ■休憩

午後の部



13:40 ~ ■6府県からの報告

テーマ: 地域におけるがん患者団体等との連携と協働の現状について 座長 滋賀県立成人病センター 岡村 理

14:20 ~ ■休憩

14:30 ~ ■グループワーク

テーマ: 府・県内のがん相談支援センターががん患者団体と「連携」・「協働」 する際にすべきことは何か?

座長 奈良県立医大附属病院 川本 たか子 兵庫県立がんセンター 橋口 周子

16:20 ~ ■閉会挨拶

国立がん研究センター がん対策情報センター長 若尾 文彦

実行委員代表 大阪府立成人病センター 相談支援センター長 東山 聖彦

共催: 近畿プロック 6 府県八城崎、京都崎、兵庫県、奈良県、邀賣県、和歌山県がん診療連携協議会相談支援関連部会 国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センター

後援(予定):大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県(順不同)

協賛(予定):アフラック

平成27年度地域相談支援フォーラム in 近畿

由込用紙に必要事項を記入・選択の上、下記各所県の送信先へメールにてお申込み下さい。

地域	相談支援フォー	ラム in 近畿 i	参加申し込み用紙
ISIV)がな		
①氏 名			
	がん拠点病院指 定状況		
2 所属	施設名		
	部署名		
	電話番号		
③ 連絡先	FAX		
200	e-mail		
④ がん相談	経験年数		年
⑤ 対人援助職経験年数			年
6 職種			
今 秋/ 李明	A.基礎研修1		
了 がん専門 相談員研	B.基礎研修2		
修 受講状況	C.基礎研修3		
文确认元	D.指導者研修		
	ワークにおい	第1希望	第2希望
て、希望す	るサブテーマ ま?		
活動等との協信で自身の経験や	会・ビアサポート 動と連携」につい 5意見等(悩みや 3)をご記入くだ		
⑩ 懇親会参	参加の希望		

- ■グループワーク サブテーマの詳細は、がん情報サービス がん相談支援センター「地域相談支援フォーラム」【平成27年度】の地域相談支援フォーラム in 近畿 開催概要に記載予定ですので、ご参照下さい。
- ■グルーブワーク サブテーマの参加希望に関しては、第2希望まで記載下さい。ただし、希望するサブテーマに偏りが生じた場合には、当方で調整させて頂く場合がありますのでご了解下さい。
- ■原則、本票に申し込みができる人数は各施設1名です。6府県の状況によっては申し込みを各施設複数名できる場合もあります。各府県の担当者にご確認ください。
- ■相談員研修の受講状況を参加決定の参考にいたしますが受講済を優先にするかは6 府県の選考基準によって異なります。各府県の担当者にご確認ください。
- ■参加費 昼食弁当代 1,000円 (当日、支払い)

申し込み期限 2015年12月10日(木) 17:00

6. がん対策情報センターからのお知らせ等

- 1) 平成27年度地域相談支援フォーラム 地域につなげる新企画 開催報告・進捗報告
- 2) 平成28年度域相談支援フォーラム採択企画
- 3) 平成28年度相談員基礎研修他の開催予定

地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画平成28年度採択企画



東北がんネットワークがん患者相談室専門委員会・ 宮城県がん診療協議会患者相談部会

「死を身近に感じながら苦悩している患者·家族を支援するために」

東京都がん診療連携協議会

相談•情報部会担当者連絡会

「地域相談支援フォーラム in 東京・埼玉・神奈 川・千葉」

「地域につなげる新企画」については応募なし

6. がん対策情報センターからのお知らせ等

- 1) 平成27年度地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画 開催報告・進捗報告
- 2) 平成28年度域相談支援フォーラム採択企画
- 3) 平成28年度相談員基礎研修他の開催予定

がん専門相談員の育成

~H26年度

1回受講するだけで、習 得度の確認、知識の更 新ができていない

基礎研修3

基礎研修2

基礎研修1



受講希望者の増加により研修の供給不足



がん診療連携 拠点病院



都道府県 指定病院など H27年度~

継続研修 (単位取得)

III, IV群

基礎研修3

基礎研修2

基礎研修1

従来通り、 研修受講 → 研修修了



がん診療連携 拠点病院 相談支援認定事業(相談員)

認定更新

指導者F/U研修

認定

指導者研修

||群

- ・認定更新により、知識の更新
- ●指導者の育成・継続研修

I群

基礎研修3 認定

基礎研修2 認定

基礎研修1 認定

- E-ラーニング導入により供給増
- 認定試験の実施により、質の担保
- 認定審査料・更新料により供給増に対応
- 非拠点の相談の質を認定により担保

相談支援認定事業(施設)

H28年度~

施設認定

認定更新

施設認定による質の担保

集合研修

都道府県

指定病院など

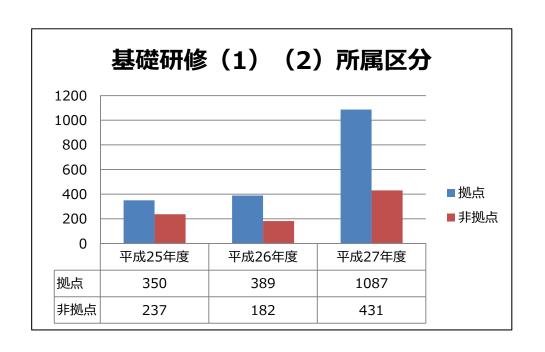
E-ラーニング

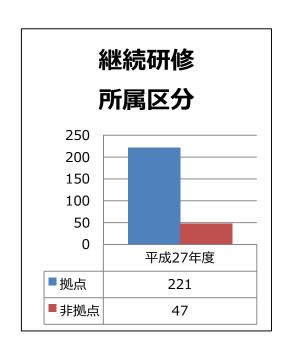
書類審査

有償

119

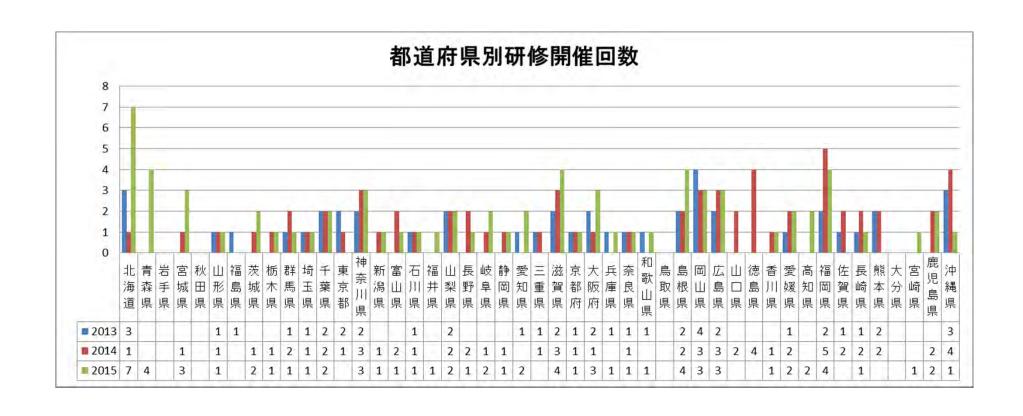
平成27年度Eラーニング 受講者属性(所属区分)





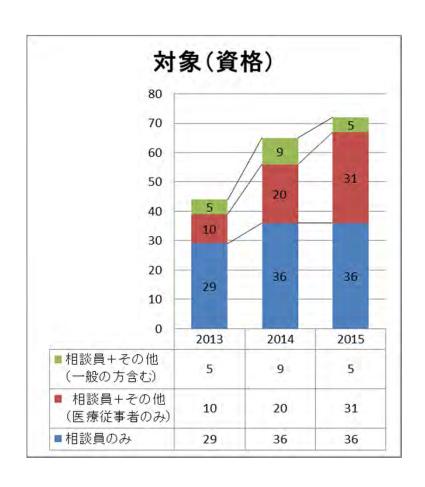
- ※平成25年度、平成26年度のデータは、基礎研修(1)受講修了後アンケートをもとに算出したもの。
- ※平成27年度のデータは、受講可否の判定を行った結果「受講可」となった者が申込時点で入力した情報をもとに 算出したもの。(2015/11/19時点情報)

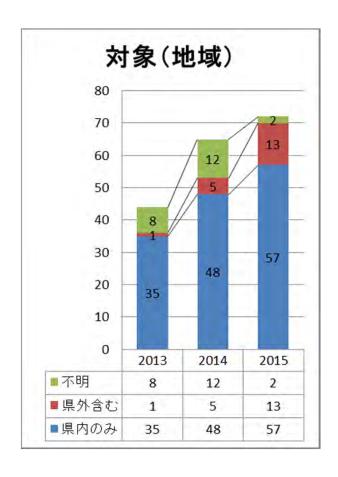
地域開催研修



※「認定がん専門相談員」認定事業Ⅲ群として承認された研修(がん対策情報センターのみが主催した研修を除く)の情報を元に算出したもの。(2015/11/25時点情報)

地域開催研修





※「認定がん専門相談員」認定事業Ⅲ群として承認された研修(がん対策情報センターのみが主催した研修を除く)の情報を元に算出したもの。(2015/11/25時点情報)

H28年度 がん相談支援センター相談員基礎研修 (予定)

研修名	コース名	対象	無/有料	日程
基礎研修 (1)(2)	研修修了	拠点病院のみ	無料	申込期間 H28/2中-H28/10末
	知識確認		有料	受講期間 H28/2中-H29/10末
基礎研修 (3)	国指定	拠点病院	無料	申込期間 H28/4上旬-5上旬
	非拠点	拠点病院外	有料	東京会場 2日間(土日) H28/7/30,31 8/6,7 8/27,28 9/3,4 9/24,25

H28年度 がん相談支援センター相談員 指導者他を対象とした研修(予定)

研修名	コース名	対象	無/有料	日程	
指導者研修	H28年度は、休止 (次回はH29年度を予定しています)				
指導者フォローアップ研修	研修の企画を考える(案)	50名程度	有料	1日間×1回 H28/7/15	
	研修企画の吟味、コンサルテーション(案)	50名程度	有料	1日間×1回 H28/7/16	
指導者他スキル アップ研修	相談対応の質評価方法を学ぶ(案)	50名程度	有料	1日間×各1回 H28/5月~ 10月頃	
	高齢者の相談支援(案)	50名程度	有料		
	情報整備と情報活用(案)	50名程度	有料		
	情報活用・相談対応モニタリ ング研修	8名	有料	2日間×4回 H28/10~ H29/1月	

平成28年度がん相談支援センター相談員継続研修(予定)

Eラーニング(講義とテスト)提供状況

研修名	コース名	対象	受講可能 講義数	申込/受講 期間	認定申請を行う場合
継続研修 Eラーニング (講義とテスト)	認定取得	H27年度までに基 礎研修(1)(2)(3) を修了している者	28科目 受講料 10,000円	申込期間 H28/4中- H28/10末 受講期間 H28/4中- H29/10末	「認定がん専門相談員認定事業」における、本コースの受講歴有効期間は、当該年度から起算して3年間(例)平成28年度継続研修認定取得コースの受講歴は、平成28,29,30年度認定申請の際はI-B群の単位として認められるが、平成31年度以降は認められない
	認定更新	認定がん専門相談 員の認定取得済み の者	15科目 受講料 5,000円		認定を更新するためには、認定取得後3年間に渡って、毎年開講される認定更新コースの受講が必要(例)平成27年度認定申請により認定取得した者は、平成28,29,30年度継続研修認定更新コースをすべて受講し、平成30年度に更新申請を行う必要がある

● 平成28年度掲載用Eラーニングコンテンツ 更新・新規 計15科目

<基礎研修(1)(2)更新6科目>

がん相談支援センター/がん専門相談員に求められる基本的な姿勢とは、がん対策、緩和ケア、がん検診、肺がん、血液がん

<新規9科目>

放射線治療、がん薬物療法、がん登録、がんと就労、病気の子どもにとっての教育、病気療養中・入院中・退院後の教育の制度や体制、膵がん、婦人科がん、前立腺がん

認定がん専門相談員、認定がん相談支援センター

国立がん研究センター認定事業

- ■認定がん専門相談員 (H27年度より)
 - 申込時期: H28年12月上旬~約3週間(予定)
- ■認定がん相談支援センター(来年度より)
 - 申請開始:H28年4月中旬~6月末(予定)

認定がん専門相談員2名を擁し、その他の認定基準を満たしている施設が申請できます。

こちらも募集要綱をご参照ください

国立がん研究センター> がん対策情報センター> プロジェクト> http://www.ncc.go.jp/jp/cis/project/certification/index.html

7. その他

8. 連絡事項

■ 平成28年度 第7回情報提供・相談支援部会

日時:H28年5月19日(木)13-16時30分 予定

場所:国立がん研究センター国際研究交流会館3階

■ 都道府県拠点病院の役割など、部会で扱うべき ご提案・意見等については、下記までお願いします。

■ 情報提供・相談支援部会事務局

■ FAX: 03-3547-8577

mail: joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp